

『Diverse Link Tokyo Edu』の事業概要

平成31年度に文部科学省ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業の指定を受け、事業拠点校を南多摩中等教育学校、共同実施校を白鷗高等学校・附属中学校、事業連携校を日比谷、深川、西、国際、飛鳥、千早、小平、小石川中等、三鷹中等、立川国際中等、大泉、三田とし、構想名はDiverse Link Tokyo Eduとして令和4年度まで事業を実施

目指す人材像

国際感覚や世界的視野、高い英語力により、事象を多面的・多角的に捉え、主体的に課題を見出し分析する深い思考力と、多様な価値観を尊重しながら協働する力、斬新かつ柔軟な創造力によって、解決策を導き行動していくことができる人材の育成

具体的な取組

都教委の主な取組

- ・Tokyo Leading Academy : 世界トップレベルの学習機会を提供する特別講座の実施
- ・高校生研究員 : 課題研究テーマについて大学教員等からの指導助言及び担当教員の課題研究に関する指導力の向上
- ・グローバル論文レポジトリ : 高校生研究員の成果等、優秀な論文をウェブサイトで公開し、生徒同士の学び合いを促進
- ・高校生国際会議 : 国内外の生徒と英語でディスカッションを行い、全体のテーマについて提言を行うイベントの実施

拠点校の主な取組

- ・文理融合型授業
英語で数学を学ぶ「MIE」や「現代社会」と連携して課題解決型学習を行う「Pensées」等、学校設定科目の設置により推進
- ・探究活動の推進
系統的・組織的な指導体制、企業・大学との連携により、幅広い視野を涵養
- ・英語力の向上
6年間を見通したCan-Doリストの活用による4技能5領域の指導
海外大学の教員を招聘して、理科や社会の授業においてCLILの実践

共同実施校の主な取組

- ・ダイバーシティ教育の実践
必修科目として第二外国語科目、学校設定科目「日本文化概論」の設置
- ・探究活動の推進
系統的・組織的な指導体制、土日や放課後にゲストを招いて討論やワークショップを行うDiversity Caféの実施
- ・英語力の向上
学校設定科目「HAPiE」による発信力の向上
全教科でCLILの実践

事業の成果

生徒の変容

- ・グローバルな諸課題や探究成果の発信等に対する意識は特定の生徒群を中心に向上
- ・プレゼンテーションや発表等に関する意識については伸びが見られ、他者との協力関係構築等に関する意識は高い割合を維持
- ・英語での発信に関する意欲等については、大きな伸びが見られず、今後の課題（発話の機会の減少等、感染症の影響も伺える結果）

※4・5年生と特定の生徒群（4～6年生を通して参加）の2つの母集団を対象にアンケートによる意識調査を実施

授業における教員の変容

- ・授業や探究活動におけるディスカッションや発表の機会の増加
- ・理由を示して効果的に説明する指導や英語で伝え合う活動を継続的に実施
- ・自分の意見を発信するだけでなく、他者の意見のよい点を認める指導へと変化

今後の方向性

拠点校・共同実施校

- ・これまで開発した探究活動を深めていくためのカリキュラム等が持続可能な取組となる組織編成
- ・外部機関との連携を探究活動の計画に効果的に配置
- ・英語によるディスカッションやプレゼンテーションの機会を確保

都教委

- ・外部機関との連携や多文化理解の機会の提供
- ・指定校の枠組みを活用した研究や研修の実施
- ・ウェブ掲載や連絡会等における報告により成果を普及